

## 第 10 回 東日本大震災支援全国ネットワーク 常任世話団体及びチーム長合同会議 議事録

1. 開催年月日： 2011 年 11 月 6 日（金）

2. 開催場所： 日本 NPO センター 会議室

3. 出席者： 総数 6 名（事務局を除く）

◇ 出席代表世話人（2 名）

栗田暢之 NPO 法人 レスキューストックヤード

田尻佳史 認定 NPO 法人 日本 NPO センター

◇ 出席常任世話団体（3 名）

光永尚生 特定公益増進法人 財団法人 日本 YMCA 同盟

池本修悟 NPO 法人 NPO 事業サポートセンター

阿部陽一郎 社会福祉法人 中央共同募金会（兼 資金チーム）

◇ 出席チーム（1 名）

池座剛 NPO 法人 自立生活支援センター・もやい（情報チーム）

◆ 欠席常任世話団体（8 団体）

NPO 法人 国際協力 NGO センター

NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

東京災害ボランティアネットワーク

公益財団法人 日本財団

日本生活協同組合連合会

公益社団法人 日本青年会議所

日本赤十字社

「広がれボランティアの輪」連絡会議

#### 4. 議事

##### 【議題1】報告事項

###### 事務局

9月30日の全体ミーティングの結果を踏まえて、次回の現地会議の日程調整を行っている。地元中間支援組織との共催で行うこととしたい。

##### 【議題2】検討事項

###### 事項1. 常任世話団体会議について

常任世話団体、急遽決めたところがあるので、全団体が参加するのは難しいと思うが、参加率が極めて低い。定例化も含めて予定を決めていきたい。イメージとしては、月1回程度で定例化。日程調整をするようにする。緊急がない限り、今年は11月と12月の2回は行いたい。

###### 事項2. 被災地への人材派遣について

東北3県から、人を出してほしいとのリクエストがあった。現地にいないと取れない情報もある。地域によって事情は違うが、JCNから現地に人を送るということも考えていきたい。常駐にするか、定期的な往訪にするか、雇用のことなど、どういう形がよいのかは現地と話し合いながらやっていきたい。東京が手薄になる可能性もあるのであわせて検討したい。これまではダイナックスに情報収集をしてもらっているが、ダイナックスには県外避難支援のほうにシフトしてもらおうと思っている。

###### 事項3. 県外避難者支援について

県外に避難している方々の支援について、ダイナックスからの協力も得て情報収集をしている。それぞれ地域ごとに孤軍奮闘しているので、情報共有などをしていきたい。年内にも、西日本で関係者が集まる機会をつくりたいと考えている。

###### 事項4. 運営資金について

これまで使った経費の精算を進めている。日本NPOセンターと武田薬品の協働による団体支援事業で、資金支援をしてもらえるかもしれない。

### 【議題3】意見交換

(出席者 A) :

これまで以上に積極的に支援をしていきたい。仙台・宮古には人を送り込んでいるので、そことうまく連携できればよいと思っている。これまでも現地会議に出てきていただいている。

(出席者 B) :

全体ミーティングに来られた人は本当に熱心だった。国とのやりとりも継続できればと思う。内閣府防災担当、厚生労働省、国土交通省などとのつながりもあるので、意見交換をしたほうがいだろう。

(出席者 C) :

現地に人をおくというのは進めたいが、誰が、どこで、何をするか、つめることはいろいろある。

(出席者 D) :

三田・慶応大学の前に、空いている部屋がある。下見も可能。

(出席者 C) :

場所だけではなく、体制も含めて考えたほうがよい。ひとりで作業をするというのはあまりよいとはいえない。人がいるところに間借りをしたほうがよい。

(出席者 A) :

いろんな団体からのアクセスを考えると大手町は利便性が高いと思う。

(出席者 E) :

チーム長やスタッフが集まり、ちょっとした作業ができるスペースがあったほうがよいと思う。

(出席者 A) :

事務所は別として、事前に相談いただければ、会議室などをお貸しすることはできる。夕方・夜でも使っていただくことは可能。

(出席者 C) :

本日欠席の方々に今日の結果を協議して、問題がなければ10月末くらいを目

処に移転する方向で進める。

## 5. その他

次回の常任世話団体会議の日程は、追って調整する。